

鳴海周平の

# ぶらり旅

高千穂・阿蘇 番外編

9月4日～6日に「なるみんなで行く！高千穂・阿蘇ヒーリングツアー」が開催されました。春秋恒例となったこのツアー。ご参加いただき皆さまに、より楽しんでいただけるようツアー前には必ず「下見」を行なうのですが、「ここ、いい感じだなあ」と思っても、大型バスが入れなかったり、大人数では入場できなかったりという理由から「下見どまり」となってしまいう場所もあります。

今回の「ぶらり旅」では、そんな理由からツアーでは訪れることができなかった阿蘇のスポットを「ツアー番外編」としてご紹介します。



牛のいる牧草地を抜けて迎り着く高森殿の杉。うねりながら四方八方に伸びる枝は今にも動き出しそう!!



まるでカーテンのように流れ落ちる鍋ヶ滝。パワースポットとしても知られています。



阿蘇山の草千里ヶ浜にあるレストラン。いったいどんな料理が出てくるのか、とても気になるところです(笑)

石に刻まれたシュメール文字同様、古代人がなぜこうした地球規模の視野を持ち得たのか、とても興味深いところですね。

押戸石の丘にある「祭壇石」から、大分県の渡神岳と福岡県の宗像大社を結ぶ直線は「水の道」、同じく阿蘇山と宮崎県の高千穂神社を結ぶ直線は「火の道」と呼ばれ、岐阜県の金山巨石群や日光などの直線で夏至と冬至に太陽が通る「太陽の道」とは直角に交差することがわかっています。

そんな不思議スポットの一つである南小国町・押戸石の丘は、巨石に刻まれている文字が、メソポタミア文明を開いたシュメール人の用いていた世界最古の楔文字であるときとされ、遠く離れた古代人の文字が、なぜこの地に刻まれているのかは未だに解明されていません。



滝の裏側にまわることもできることから「裏見の滝」とも呼ばれる鍋ヶ滝。濡れそうで濡れない、と思いきや、やっぱり濡れることもあります(笑)



福岡のお話会で毎回お世話になっている早川正子さんと西野洋子さん。今回のツアーでも現地スタッフとして多大なご協力をいただきました。どうもありがとうございました!!

「樹木の形は土地のエネルギーを反映している」という説があります。「高森殿の杉」と呼ばれるこの巨木は、いったいどんなエネルギーが反映されているのでしょうか(笑)

火山灰や軽石が、高さ数十キロまで吹き上がったという巨大噴火のエネルギーと、何万年にもわたる火山活動によって形成された地形が放つエネルギー(形霊)が生み出す数々のパワースポット。知れば知るほど、阿蘇の魅力はいつそう深まっていくのです。



祈りの場だったとも云われる巨石群。メソポタミア文明を開いたシュメール人の用いた文字が刻まれていることや、宗像大社、高千穂神社といったスポットへ通じる直線が「太陽の道」になっていることなど、いまだに多くの謎が残されています。



押戸石の丘にある「はさみ石」。夏至と冬至には、この石の狭間を太陽が通ることから、古代において日時計的な役割を果たしていたとも考えられています。ちなみに方位磁石をこの狭間に入ると、針が大きく動きます。